

令和5年度（2023年度）

第3回八王子市環境審議会

令和5年（2023年度）8月31日（木）～9月15日（金）

書面開催

八王子市環境政策課

令和5年度（2023年度） 第3回八王子市環境審議会出席者名簿

会 長	沼 田 真 也
副会長	西 川 可穂子
委 員	荒 井 康 裕
	櫻 井 達 也
	中 島 裕 輔
	藤 原 祥 子
	山 口 隆 子
	大 竹 邦 江
	榺 啓 子
	西 山 茂
	岡 村 優 子
	上 村 邦 彦
	前 村 久美子
	戸 辺 清 文
	前 田 憲 一

次 第

1 第3次八王子市環境基本計画骨子案について

意 見

あり	10人	（意見は以下のとおり）
なし	5人	

## 令和5年度（2023年度）第3回八王子市環境審議会 意見一覧

No.	骨子案 ページ番号等	意見・コメントなど
1	第1章、第2章	適切な構成内容となっていると思う。今後に向けて「CCUS」や「ネガティブエミッション」の考え方もあることを紹介しても良い。
2	第2章 2. 1	基本目標 I にも関わる農地の状況についても触れるべきである。
3	1 3	「降水量」には雪も含むため、「雨量」とは異なる。降水量のグラフであれば、縦軸のタイトルも降水量に統一する必要がある。
4	1 6	大気汚染状況・水質汚濁状況については、各市民会議でも調査しているが、反映されているのか。 市民会議での調査は今後も必要か。各市民会議では、高齢化等で調査が負担になっている。市での調査との区別がよく分からないため、調査の必要性の有無と区分を再考していただきたい。
5	第2章 2. 2	八王子市における鳥獣害被害の推移についても触れてはどうか。
6	1 7～3 6	図表等の出典を明らかにするとともに、世界及び国や東京都の動向があり、それらを踏まえて、八王子市の課題や方向性へとつながっていくことが分かると良い。
7	1 9	高尾山の名前がついた植物として「タカオスミレ」、多摩の名前がついた植物として「タマノカンアオイ」がある。
8	2 4	童謡「夕焼け小焼け」の利用について、八王子市も含めて記載した方が良い。
9	2 5	「貴重な動植物の保全の場」→「貴重な動植物の生息の場」 「モズやエナガ、カタクリなど～確認されています。」→「モズやヤマアカガエルなどの里地里山に特徴的な生物や、カタクリに代表される800種以上の植物が確認されています。」 「～による緑地管理により、里山保全活動が進められています。」→「～による緑地管理など、多様な主体によって里山保全活動が進められています。」と変更していただきたい。
10	第2章 2. 3	OECD等については、噛み砕いた説明（八王子市がどのように関わりうるか）が必要に思われる。

1 1	3 0	2050カーボンニュートラル実現に向けた関連動向として、今年成立したGX推進法とGX脱炭素電源法について紹介してはどうか。 SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」では、OECD加盟国にはカーボンプライシングに関する指標が設けられているが、日本はこの達成度が低いと評価されている。 GX推進法ではカーボンプライシングの枠組が盛り込まれているため、市民に広く情報共有することは有意義だと思う。
1 2	3 5	代表的な事例として、Apple、ユニクロ、投資ファンド等によるESGおよびSDGs関連の活動を紹介することも一案である。八王子市内の企業による代表的な活動も掲載できると良い。
1 3	3 7	「2.4第2次環境基本計画の主な成果と課題」について、八王子市のことであることが分かりづらいので、八王子市のことを明記していただきたい。
1 4	第2章 2.4基本目標II	特に生産人口世代の生活の質や経済活動を棄損することなく、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入をめざすべきである。今後の方向性においても、そのことについて触れるべきである。
1 5	第2章 2.4基本目標III	認知-行動変容の間には大きなギャップがある。危機感が共有されなければ、行動変容は起こらない。「情報が提供されれば、行動変容される」という楽観的なシナリオについては検討が必要である。
1 6	第2章 2.4基本目標IV	まちの美化が保持されていると思う市民の割合（50%強）は決して低くないと思われるが、どのくらいの割合が適切なのか。
1 7	3 7～4 2	第2次八王子市環境基本計画の基本施策の「成果指標」についての成果が、それぞれ「最終目標」に対してどの程度の達成ができたのかが分かりにくいと思う。「最終目標」に対してどうだったのか、たとえば「〇〇の最終目標〇〇を達成するために、こういう『課題』とこういう『今後の方向性』が必要」、という繋がりが分かりにくい印象を受けた。
1 8	3 8	高齢化が進む中、八王子市で実施している「ふれあい収集」は、とても良い取組である。ごみ出しに苦労している高齢者が多いため、この取組は減量に繋がっている。この欄に追記できると良い。
1 9	3 9	p. 39、課題「1人1日当たりのごみ排出量は減少しましたが、家庭系可燃ごみには約4割（令和4年度実績）の食品ロスや生ごみが含まれています。」等の記述は、市民としては分かりづらいと思う。多くの家庭ではごみの多くは生ごみに限られており、その大半が食品の非可食部という場合も多いのではと思われる。その場合、約4割含まれていると言われても、これ以上は減らせないと思う人も多いのではないかと推察される。より具体的なデータ（家庭系可燃ごみの中の可食部と非可食部の生ごみの割合や、他の地域との絶対値の比較）についての記述があれば説得力が増すと思う。食品ロスに関しては、家庭よりも食堂や食料品店で発生しているという可能性はないか。そこを改善する施策の検討に力を入れると良いと思う。

20	39、40	<p>学校給食の食品ロス問題について、前回回答をいただいているが、以下の内容も表記したらどうか。</p> <p>「本市におきましても、数年前から市内全小学校及び給食センターの給食残さを市内の民間リサイクル施設へ搬入してたい肥化しています。</p> <p>また、平成29年度より、「食品ロス削減月間」である10月中の1週間、本市の小学校及び義務教育学校にて、学級活動等で食品ロス削減の観点から学校給食を通じた行動目標を子どもたちが考え、「もったいない大作戦ウィーク」と題して協力しながら目標達成を目指して給食を喫食しています。」</p>
21	39、40	<p>市民1人当たりの年間CO2排出量の削減割合（平成12年度比）は、どのように算出しているのか。</p> <p>「日常生活において常に地球環境に配慮している市民の割合」は、どのように算出しているのか。</p>
22	40、47、51	<p>環境学習の担い手の創出に関連して、学校の先生にもっと身近な自然について授業に取り入れてもらうため、今年8月に日野市の環境学習支援団体より研修依頼があり、市内各学校の教員などに対し、講座を実施した。このような取組が八王子市の教員にもできると良いと思う。</p>
23	42	<p>今後の方向性について、敷地内のごみ放置と共に空き家対策も入れていただきたい。</p>
24	47	<p>第2次八王子市環境基本計画の基本目標を今回Ⅰ～Ⅲの3つに絞ったことですっきりしたと思う。</p>
25	47	<p>基本目標Ⅱ「心地よく豊かに暮らせるまちの実現」内の説明文と目標実現に向けた取組例の内容が整合していないように見受けられる。</p>
26	第3章3.3、 第4章	<p>3つの基本目標と基本施策は、どのように関連するのか。</p>
27	48以降	<p>各種成果指標の目標値が”調整中”となっているが、この数値の設定には細心の注意が必要である。実現可能性を重視するのか、野心的なものにするのか、また数字の根拠は何なのかを十分に検証する必要がある。</p>
28	51	<p>「緑地を適正に管理することで、二酸化炭素吸収量の増加に貢献します」について、厳密にいえばかなり困難（林齢が若い樹林地は吸収源になりうるが、それ以外の樹林地はほとんど貢献しない）。</p>
29	51	<p>「地球温暖化に起因する生きものの生息生育環境の劣化を防止します。」について、現実的に可能なのか。</p> <p>「グリーンインフラによる適応策が生きものの生息環境の確保」の意味が分かりにくい。</p> <p>「プラスチックの適正処理により、海洋プラスチックの発生が抑制され」について、エビデンスはあるのか。</p> <p>「自然に触れ合う子どもを増やすことは、生きものに対するネガティブな感情を低下させたり、保全意識の向上に貢献します。」について、「子供の頃から自然と触れ合うことで、生きものに対する恐怖や嫌悪は軽減し、保全意識は高まります。」等に変更するのはどうか。</p>

30	52	市民が気軽に参加できる「いきものログ」などのアプリを活用した調査手法の普及について、現在町田生きものアプリの監修を行っているが、植物の同定はかなり高度な知識を要する。八王子市で取り組む場合は、専門知識を有する人の協力が必要。
31	61	再生可能エネルギーの導入促進について賛同するが、完全に再エネ化することは、大幅なコスト上昇が考えられること、自然条件等により出力が不安定になることのため困難である。再エネに加えて、e-methane（合成メタン）等の環境負荷の少ない様々なエネルギーについても、考慮することがより良い。
32	62	取組例の上から4つ目「照明LED化や・・・」の前に、「日射遮へい対策や断熱強化」といった、建物の省エネ対策から書くべきである。
33	63	取組例の上から2つ目について、漠然とした書き方になっていてフィールドが分からないため、「駅周辺街区」や「業務・商業施設等集積地区」など、想定するフィールドを記載した方が良いと思う。
34	73	①ウォークラブルなまちの形成、について、骨子案で挙げられている主な取組はこの語の意味するところの一部であるように思えた。「個別の施策」の表題として、この語が適切かどうか検討の余地があるように思う。
35	第3章、第4章	p. 47までは分かりやすいが、p. 49以降基本目標と基本施策の対応が分かりにくいと思う。それぞれの基本目標の下に基本施策を置いた方が分かりやすいのではないかな。
36	第4章	指標は、健康診断の指標と同じで、大変重要。施策の目標に応じて、適切な指標を作成すべきと思われる。（例：「1-1 生きものや生態系に関する情報の把握」は、調査実施地点数ではなく、その内容を指標化するのが重要）また、目標値は根拠がある数値とすべきである。（なぜ、～haが必要なのか等の説明があるべき）
37	全体	基本的な方向性としては、これで良いと思う。 今後検討することになっている部分こそ、とても大事な部分だと思うので、引き続き検討いただきたい。
38	全体	カーボンニュートラルをめざすのであれば、八王子市の森林による二酸化炭素吸収量についても概算値を掲載し、排出量とのバランスが分かるようにしても良いと思う。林野庁が吸収量の算定方法についての情報をホームページで提供している。

※誤字・脱字等に関するご意見については、掲載しておりません。